
今日の力

2019年7月15日～7月21日

翻訳 ハンコック・真由美

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第二版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月15日(月)

どこに建てるか

聖書朗読 マタイ 8:24～27

あなたの宝のあるところ、あなたの心もあるからです。

マタイ 6:21

礼拝が始まる前、小さな子供たちが礼拝堂の最前列に座っていました。「愚か者の歌」という聞き慣れた歌を歌っていました。岩の上に家を建てる、砂の上家を建て、雨が降ってくる。水が増す。その様子を小さな手を一生懸命に動かして表現しながら歌っていました。礼拝堂の後ろに座っている大人にとっては、その歌詞は恐怖でした。なぜなら、それを実際に経験したからでした。

教会員の多くは海岸線沿いに住んでいました。ハリケーン・アイクの被害に遭うまでは、魅力的な場所でした。その場所を選んで家を建てることに誰も何の疑問も抱きませんでした。ハリケーンで、大勢の人が家を無くし引越を余儀無くされました。亡くなった人もいます。法的に修復したり、建て替えるのは不可能になりました。

海岸に住んでいなくてもここで言いたいことは理解できるでしょう。動いてしまう砂の上に家を建ててはいけません。名誉、宝、土地などに時間を使わないでください。その代わりに、時間と才能と心を永遠なる大切なもののために使ってください。それは、風や波や虫やサビの影響を受けません。あなたの未来を神様と永遠に住むというイエス様とのすばらしい約束の上に築きましょう。

讃美歌 461

祈り 私たちを裏切ることのない神様、私たちの宝を今住んでいる所ではなく天に蓄えることができますように。私が心を注ぎ、力を入れている場所があなたの約束によって保証されたものであることがわかるように助けてください。あなたの確かな約束をありがとうございます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジュディ・インデスト
テキサス州パーランド

7月16日(火)

虫食いの腐った実か、良い実か？

聖書朗読 マタイ 13:18~23

ところが、良い地に撒かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。 マタイ 13:23

リンゴ園に行った時、たくさんのリンゴの木の間に歩きながらすっかり魅了されていました。悪い木を見分けるのは簡単でした。実がなっていないのが悪い木だからです。そういう木の根元には 枝から落ちた実が落ちていました。その実は腐っていて、木には実がついていません。リンゴ狩りをする者にとっては全く役に立たない木です。良い木のように見えても、近づくとも虫喰いだったり、腐りかけているのもありました。私たちが探していた良い木というのは、虫のついていない見た目も完璧な実がなっているリンゴの木でした。

神様の眼に映る私たちの成長や生産性を考えてみましょう。神様の御子は、実を結ばない季節にも、適切な養分をくださり 土を耕し 水をくださいます。しかし、果樹園には、悪い木、見た目はいいけれども実がならない木、良い木が全部一緒に植わっています。数本の実のならない木があっただけで、いい果樹園か悪い果樹園かの基準にはなりません。そこを神様に感謝したいです。

神様の水を十分に吸い 神様の陽の光を浴びて、成長する時間を感謝してください。神様は時間をかけながら義の種をあなたの中に撒き、腐ってしまうことなく神様のお役に立てる実が育つのを楽しみにしておられるのです。

讃美歌 503

祈り 親愛なる神様、あなたの愛に根ざし あなたの恵みの雨を受け あなたののみ言葉によって成長させてください。私が今置かれている環境を通して私を強めてください。そうすることで、あなたの名による実を結び それがあなたの御心だと理解できますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

エリカ・キンバリー・スタンリー
コネチカット州 セイモア

7月17日(水)

あわれみ深いキリスト様

聖書朗読 マタイ 15:29~38

イエスは弟子たちを呼びよせて言われた。「かわいそうに、この群衆はもう三日間わたしといっしょにいて、食べる物を持っていないのです。彼らを空腹のまま帰らせたくはありません。途中で動けなくなるといけないから。」 マタイ 15:32

あわれみの心を大切するクリスチャンもいるし 無視するクリスチャンもいます。多くのクリスチャンは、あわれみを一番上や一番下に位置づけず、中道を行います。大切だとは考えますが、伝道の方がより大切だと考えます。誰かに助けの手を差し伸べることを求めてやまない人もいれば、イエス様のみもとにいる方がいいという人もいます。

人生のあらゆる分野において、イエス様がどうされたのかという事だけでなく、イエス様は何をどういう順番でなさったかに注意を向ける必要があります。

マルコによる福音書1章38節でイエス様が、弟子たちにこう話されました。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。」その数節あとで、イエスは「深くあわれみ、(らい病で苦しむ男に)手を伸ばして彼にさわって…」と書いてあります。イエス様の当初の目的はみことばを伝える事でした。しかし、イエス様は 説教し、教えを説く時に会った人々に いつもあわれみの心をお示しになりました。神の御子は、霊的な癒しの基として 身体的な癒しをなさいました。私たちもそうしましょう。「出て行って同じように」にしようではありませんか。

讃美歌 502

祈り 天の神様、神様だけが私たちの身体的な必要と霊的な必要の最良のバランスを教えてください。いつもイエス様を模範として気に留めるようにしてください。

イエス様のお名前です。アーメン。

ケイ・バーナム・エバンズ
テキサス州 ラボック

7月18日(木)

予想外だったのか

聖書朗読 マタイ 24:36~44

見よ、わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えてくる。
黙示録 22:12

「人々は飲んだり、食べたり、めとったり、とついたりしていました」(マタイ 24:38)。この表現は今の時代にも当てはまります。伝道者の書1章9節には、「日の下には新しいものは一つもない」と書かれています。

かつては、世界中の人が「楽しい時間を過ごす」ことを求めています。楽しい時間は終わらないように見えました。神様は、これ以上ない高い位を持っておられ、全ての人間をお造りになり、また全ての人間を滅ぼすこともできるお方です。それなのに人間は全く神様を恐れることはありませんでした。そう言えば、ノアという名前の変わり者の男が陸地に船を作り、楽しみを求めるよりも正しいことに目を向けましようと話しました。しかし、地球上の誰もが楽しく暮らし、耳を傾ける者はいませんでした。

今この世に必要なのは、今の楽しい暮らしに目をくらましている人々に、愛を持って永遠の命という福音と神にある生き方を伝える「変わり者」なのではないでしょうか。

クリスチャンとは、
撤退する人ではなく
進攻する人である

——ビル・グラス

讃美歌 380

祈り 親愛なる神様。あなた様の御子が地上に戻られ、あがなわれた者たちがあなたと永遠に生きていくことを期待して真実に生きていけますように。あなたからの祝福が今と永遠とにありますように。
イエス様のお名前によって。アーメン。

リチャード・ウルフ
カンザス州 オラセ

7月19日(金)

神様の心

聖書朗読 マタイ 26:31~35, 69~75

ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。
ヘブル 6:1

私たちが何かをするとき、ほとんどの場合 その心はとても良いものです。ペテロの心も良いものでした。彼は、イエス様から離れるつもりもイエス様を3回否定するつもりもありませんでした。しかし、悪魔は私たちの1番の弱点を知っているのです。

何年も前になりますが、夫と私は 主の招きに応じて 宣教師として外国に行く決心をしました。5年の間、祈り準備を整えました。特別支援が必要な子供たちとその家族を助けるために霊的にも感情的にも準備をしてきました。アメリカを発つほんの数ヶ月前に、幾人かの支援者が突然考えを変えたのです。私たちの計画は頓挫してしまいました。精神的に打ちのめされてしまいました。何のしようもありません。神様からの招きを正しく聞いていたのか疑問を持ちました。クリスチャンの友人が山の中のキャビンを提供してくれました。そこで一週間過ごし、私たちの主に答えを尋ね求めました。「主を待ち 主に聞け。わたしはいつもあなたと共にいる。わたしを信頼せよ。」私たちはその力強いメッセージを信じ続けました。

数週間待った後、異なる国へ行く支援をしてくれる教会が現れました。そして、私たちの人生の新しいステージが始まり、ホンデュラスで10年間働きました。神様は私たちが始めに行きたかった場所ではなく本当にここに私たちを送りたかったのだと何度も思われました。自分たちの思いを優先しようとしていた私たちを救ってくださった神様に感謝します。

讃美歌 494

祈り かけがえのない神様、私たちの信仰が揺るぐとき、忍耐してください。みこころを示してください。それが私たちの思いとなりますように。
主なるイエス様のお名前によって。アーメン。

ブレンダ・ヤング
ワシントン州 モクシー

7月20日(土)

すみません、礼拝がありますので…

聖書朗読 マルコ 3:1~12

それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行なうことなのか、それとも悪を行なうことなのか。いのちを救うことなのか。それとも殺すことなのか」と言われた。彼らは黙っていた。 マルコ 3:4

私の両親は、日曜の礼拝にほぼ毎回出席していました。したがって、幼い私もほとんど休んだことはありません。そのことを思い出すたびに 感心するのは父のことです。父は夜勤が続いた後に礼拝に行っていました。そのまま睡眠を取らずに夜勤に戻ることもありました。礼拝を休んだある日曜日のことを今でもはっきり覚えています。真夜中に、隣の家の人から水漏れの修理を頼まれたのです。父は日曜日の朝になっても修理を続けました。日曜日なのだから教会に行くべきだという人もいることでしょう。

安息日に癒したことでイエス様は非難されました。論争を避けるために「明日来てください。」と言ったり、「一日延期しましょう。」と言うこともできたでしょう。イエス様は、宗教上の伝統を人々の必要より重んじることは、善か悪か、もしくは 生か死かの問題だと表明しています。

父親が何を優先するかを見て育ったので、父から偽善を感じたことがなかったのかもしれない。父の行動の中にある真の信仰を身近で見られたことは誇りです。

讃美歌 3

祈り 主よ、私を仕えるものにしてください。私の周りの人の必要に気がついて、あなたがなさったように行動を起こして関わることができますように。
イエス様のお名前によって。アーメン。

デイビッド・ベアデン
アラバマ州 タスカルーサ

7月21日(日)

畑に種を蒔いたことがありますか？

聖書朗読 マルコ 4:21~29

地は人手によらず実をならせるもので、 マルコ 4:28

子どもが父親の畑の一行にトウモロコシの種を蒔きました。毎朝早く起きて芽が出るのを楽しみにしています。その子どもには芽が出てくるのが永遠のように感じ、またある時は、いつ種を蒔いたのか忘れてしまう時もありました。地面から芽が出た時どんなにワクワクすることでしょう。

今日の聖書の箇所は意義深いです。「地は人手によらず実をならせる」のです。パウロはかつて言いました。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」(I コリント 3:6)。

ある人が高齢者になってからクリスチャンになりました。何がきっかけだったのか聞くとこう言われました。「だいぶ昔に 若い伝道者が福音を語ってくれたのだが、当時は拒否してしまった。しかし、彼の話をおぼえることはなかった。彼の話が正しいと理解できるまでに何十年もかかってしまった。」種は確かに蒔かれ、その時が来るまで神が成長させてくださったのです。

もしかしたら、だからパウロはこう語ったのかもかもしれません。「キリストが私をお遣わしになったのは、バプテスマを授けるためだけではなく、福音を宣べ伝えさせるためです」(I コリント 1:17)。私たちにできることは、種を蒔き 待つ準備をすることです。芽が出るのはいつなのか、私たちにはわからないのですから。

讃美歌 502

祈り 親愛なる天のお父様、あなたのみことばを伝える私たちの努力を祝福してください。種を蒔いた後、忍耐させてください。みことばを聞いた人が芽を出すことを諦めないで待つことができますように。
イエス様のお名前によって。アーメン。

H・グレン・ボイド
アーカンソー州 サージー